

鶴の便り



令和7年1月10日
第169号
発行 夕鶴の里
住所 南陽市漆山2025-2
Tel 47-5800



謹賀新年

明けまして、おめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申しあげます。

本年は、巳年です。中国伝来の十二支では、本来植物が循環する様子を表しているのので、十二支の六番目に草木が完全に成長している様子を表す「巳」がきます。

動物が十二支に充てられたとき、「蛇」の文字が充てられました。蛇というと、しばしば嫌われ者扱いをされがちですが、一方で脱皮を繰り返して成長することや、その生命力の強さから、「再生」「復活」「長寿」を象徴し、縁起がよい生き物とされることもあります。

本年巳年は、「鬼が出るか蛇が出るか」、いったいどんな試練が、または喜びが私達を待ち受けているのでしょうか。どんな困難に直面しても「蛇に睨まれた蛙」のように萎縮することなく、チャンスがあれば「長蛇を逸する」ことなく、ひとたび目標を定めたならば「竜頭蛇尾」に終わることがないように、健康に留意しつつ、充実した一年にしていきたいものです。

さて、南陽市夕鶴の里は、平成5年4月25日の開館以来、四十万人を超える入館者をお迎えしました。語り部の館では、昔話や民話の語りを通して地域の伝統文化を学びながら、情操豊かな心を育むことができます。また、資料館では、養蚕や繰糸、製糸業に係る地域の歴史を学ぶことができます。

特に、昔話や民話には、計り知れない奥深さがあります。人としての心構えや事の善悪・いたわり・助け合い・倫理観などを教えてくれます。こうしたよさを伝えていかなければ、地域の文化や歴史が失われ、忘れ去られていくこととなります。目に見えないものではありますが、極めて大切なことだと考えています。

夕鶴の里が多くの皆様に愛され、親しまれますよう職員・関係者一同一丸となって努力して参ります。これまで同様、ご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげ、新年の挨拶といたします。



夕鶴の里

館長 山田和男



語り部さんを知ろうコーナー

語り部さんのことをもっと知りたい！皆様にも知っていただきたい！と思い立ち上げたコーナーです。

第6回目は民話会ゆうづる、齋藤和子さんをご紹介します。

①民話会ゆうづるへ入会したきっかけはどんなことだったのでしょうか？

退職後、「私にもできるかな？」と思い、養成講座に参加しました。その後多勢久美子さんから「おめもはまれ、だいじょぶだから」と声をかけていただき入会させていただきました。

②お話しされている民話の中で得意なお話は何ですか？

「やぎめすじぞう」と「大銀杏と与兵エどの」です。母と子がおにぎり一つで心が通じ合い、すこやかに育ったであろうと思うとその様な話が好きです。大銀杏は小さい頃から見ている銀杏の木にもこんな話があったのだと思うと愛着が湧きます。

③民話を語る上で大切にしていることを教えてください。

「ゆっくりと静かに語りかけるように」を心がけています。

④語り部さんとして一番嬉しかったことはどんなことですか？

お客様から「良かった」「癒しになった」とお帰りの際に話していただけると嬉しく思います。一番は笑顔で帰っていただけることです。

語り駅伝が開催されました

令和6年12月7日（日）第21回民話の「語り駅伝」を開催しました。恒例の「わらべうた」から始まり、今回は令和6年度の語り部養成講座受講生と漆山小学校生の計8名の語りを披露していただきました。最後に「さよならさんかく、またきてしかく」を歌い、終演しました。会場にいらしたお客様からは「とても楽しかった」「大人だけではなく、子供の語りも聴けてよかった」など好評のお声をいただきました。

